

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成19年11月1日(2007.11.1)

【公開番号】特開2006-78417(P2006-78417A)

【公開日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【年通号数】公開・登録公報2006-012

【出願番号】特願2004-264919(P2004-264919)

【国際特許分類】

G 0 1 L 19/14 (2006.01)

【F I】

G 0 1 L 19/14

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月13日(2007.9.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

圧力室の圧力に感圧するセンサチップを内蔵した金属ハウジングと、圧力計測対象装置への取付け部を有するジョイントハウジングと、該ジョイントハウジングと前記金属ハウジングとの間に配設され両者の間を電気的に絶縁するための絶縁部材とを備えた圧力センサにおいて、前記金属ハウジングを、安定した電位を有するセンサ電源に電気的に接続したことを特徴とする圧力センサ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

上記の課題を解決するため、請求項1に記載の発明に係る圧力センサの構成上の特徴は、圧力室の圧力に感圧するセンサチップを内蔵した金属ハウジングと、圧力計測対象装置への取付け部を有するジョイントハウジングと、該ジョイントハウジングと前記金属ハウジングとの間に配設され両者の間を電気的に絶縁するための絶縁部材とを備えた圧力センサにおいて、前記金属ハウジングを、安定した電位を有するセンサ電源に電気的に接続したことを特徴とするものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記した請求項1に係る圧力センサによれば、センサチップを覆う金属ハウジングを、安定した電位を有するセンサ電源に電気的に接続することで、センサチップを電気的にシールドすることができ、外部からの電気ノイズに影響されない耐ノイズ性に優れた圧力センサを得ることができる効果がある。

しかも、既存のターミナルピン等を利用して、センサチップを覆う金属ハウジングをセンサ電源に接続することができる、センサチップのシールド機能をきわめて簡単に行える効果がある。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】